

令和 5 年 5 月 11 日現在

機関番号：32702

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K00323

研究課題名(和文) 世界戦争とナショナル・アイデンティティ アジア太平洋戦争期の他者体験と文学言説

研究課題名(英文) World War and National Identity

研究代表者

松本 和也 (MATSUMOTO, KATSUYA)

神奈川大学・国際日本学部・教授

研究者番号：50467198

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、世界戦争(アジア太平洋戦争)期における国内外の文学言説(外国語・外国語文学受容も含む)を、帝国日本のナショナル・アイデンティティを軸として多角的に調査・分析した。研究成果として、戦時期にもなお、外国文学と日本文学が複数のルートから相互交渉し、それゆえのさまざまな意味や葛藤を生み出していた様相を明らかにすることができた。(これらの成果は、著書2冊・論文19本などを通じて公開した。)

研究成果の学術的意義や社会的意義

近代文学史・文化史上のエア・ポケットである、アジア太平洋戦争末期における文学(者)を主題とした言説を、特に、(敵国や占領・支配地域も含めた)諸外国との関係に注目して調査・分析したことが、本研究の特徴であると同時に、新たな問題領域へアプローチしたことによる学術的意義を担う。また、戦後から現在に至る文化的インフラの原型となった戦時期文学を検討することは、現在のナショナル・アイデンティティを考えるための基盤を提供するという社会的意義も担う。

研究成果の概要(英文)：In this study, we investigated and analyzed domestic and international literary discourse (including the reception of foreign languages and literatures) during the World War (Asia-Pacific War) from various perspectives, focusing on the national identity of Imperial Japan. As a result of this research, we were able to clarify how foreign literature and Japanese literature negotiated with each other from multiple routes even during the war period, and thus produced various meanings and conflicts. (These results were made public through two books and 19 papers.)

研究分野：日本文学

キーワード：南方徴用作家 高見順 太宰治 谷崎潤一郎 『Contemporary Japan』 『英語研究』 フランス文学  
受容 地方文化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

本研究を構想した際の研究状況・学術的背景について、当該領域の先行研究から概括する。本研究において主要な研究対象時期とした世界戦争（アジア太平洋戦争）期における文学は、「空前の非文学的時代」（平野謙『昭和文学史』1963）と総評され、戦争文学は「ゼロの文学」（小松伸六「戦争文学の展望」1950）と酷評されるほどであった。

具体的な先行研究のレベルにおいても、アジア太平洋戦争期の文学（活動）については、戦争文学（批判）を中心に研究が蓄積されて今日に至るものの、それらのほとんどは作家個人や東京中心に偏重した「点」としての成果に限られ、地方や外国文学・文化移入の問題、さらには大東亜共栄圏を視野に入れた歴史的な視座からの「面」としての研究は、これまで十分に企図・実践されてこなかった。さらに、物資不足や国策・文化統制による文学活動の縮小ゆえもあって、アジア太平洋戦争期の文学は研究対象として軽視されてきたように見える。

しかし、イデオロギー的裁断や戦後からの評価を相対化した同時代の視座を採れば、戦時期にも文学者は存在し、それぞれの事情を抱えつつ、各自の領分で文学活動を展開していた。

そうした文学活動に関する注目点としては、以下の3点が考えられる。

第一に、アジア太平洋戦争期の文学者は、戦争に関わる文学活動に関わっていた。前線に関わって文学者は、植民地・戦場・占領地での文化工作・思想戦に従事することにより、他者・異文化との交流を持ち、その体験を文学言説として書いた。同時に銃後においては、大政翼賛会文化部の活動に端を発し、農村からの人口流出や文学者の疎開の動向などと連動しつつ、文学者は列島各地での地方文化活動に関わり、やはり文学言説を生み出していった。

第二に、太平洋戦争開戦に伴って、敵国となった英米の文学、さらには複雑な位置づけとなったフランスの文学といった外国文学に関わる文学者も存在した。戦局の展開によって旧来通りの活動が難しくなる一方、外国文学の翻訳や紹介は細々とながらも継続されていった。

さらに、以上の諸活動の基底として第三に、戦時下における文学者の社会的位置の不安定さも考慮する必要がある。その活動が、直接、戦争に関わることの少ない文学者は、それゆえ恒常的に社会的存在意義が問われ、思想戦や文化活動を通じた社会貢献が求められてもいた。

こうした、実は多彩ですらあった文学活動が、これまでの文学研究史においては、否定的な評価を暗黙の前提として看過され、あるいはごく簡潔に記述されるのみであった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、「アジア太平洋戦争期の文学活動に関して、その具体的様相・歴史的意義はどのようなものか、文学言説によって帝国日本のナショナル・アイデンティティがどのように構築・再編成されたのか」という「問い」を実証的に解明し、新たな研究基盤を創出することにある。その際、この時期の特徴である文学者の移動と異文化交流に注目し、同時代の視座・国際的な視野および戦略的研究軸に即して、調査・分析・考察を進めていく。

こうした研究の目的は、以下の問題領域の特性に応じて設定したものである。

第一に、本研究の研究対象・研究課題の設定についてである。これまで、アジア太平洋戦争期の文学（者）は限定的にしか問題化されてこなかったが、本研究が設定した問題領域は、当時から現在に至る、文化的インフラ、世界各地域に関する心象地理の形成に大きく関わっていた。したがって、本研究では、アジア太平洋戦争期の基底的条件である、国際関係の変容、大東亜共栄圏構想による地理的拡張といった時代の表徴をふまえ、移動と他者体験に着目し、調査を進めていくこととした。

第二に、本研究の多角的かつ長期的な射程についてである。これまで、アジア太平洋戦争を問題化する際には、戦後・対米を中心とする視座からの史観が主流とされてきた。これに対して本研究では、さらに対アジア諸国、対英、対仏などの論点を複眼的に関連づけ、アジア太平洋戦争期に関する多国間的な歴史理解の創出を目指す点に特徴がある。戦中から戦後、そして現代もまを視野に収めながら、文学者が果たした国際的かつ歴史的な役割を実証的に解明していく。

上記2点へのアプローチとして第三に、同時代の視座・国際的な視野を採る本研究では、「研究軸 「大東亜」時代の「地方」文化」と「研究軸 外国文学・文化の翻訳」という複眼的な研究軸を構え、6名による共同研究体制を生かし、当該時期の関連資料を多角的に調査することで、狭義の日本文学にとどまらない視野から「問い」へとアプローチしていく。

こうした方針・注目点に即して、上記「問い」の解明を目指すのが本研究の目的である。

## 3. 研究の方法

本研究では、広範且つ複雑な関係性をもった問題領域を、歴史的に問題化するために、6名からなる共同研究を組織し、「研究軸 「大東亜」時代の「地方」文化」と「研究軸 外国文学・文化の翻訳・受容」という2つの研究軸を構えて、膨大な資料の調査・研究に当たった。

第一に、「研究軸 「大東亜」時代の「地方」文化」については、アジア太平洋戦争期において文学者たちが帝国の前線（外部）と銃後（内部）の双方で、アイデンティティの定立と表象をめぐるプロジェクトの中心的な役割を果たしたという見通しから、国内／外それぞれのアプローチを準備した。1つめは、徴用等で東南アジア地域に向かった文学者の言説に注目し、「大東亜」の他者たちを記述するテキストの現場で生じた葛藤と交渉の様相を分析する。2つめとして、列島各地を対象とした文学者のルポルタージュ言説を取り上げ、帝国の境界変動が「地方」表象にどんな影響を与えたか、ナショナル・アイデンティティの再編という観点からの分析を行う。こうしたアプローチによって、帝国日本が抱え込んだ複層性を把握する視野を担保することを目指した。

第二に「研究軸 外国文学・文化の翻訳・受容」については、戦時下の日本文学が、一方で外国文化との差異を強調しながら、他方で外国文学の知を巧みに取り込み、異種混交的にナショナル・アイデンティティの再構築を行ったという見通しから、調査を進めた。特に、戦時における出版・言論統制下、敵性言語となった英米文学や政治的に複雑な関係となったフランス文学が、限定的ながら翻訳・受容されたことに注目し、資料的に未解明なそれらの実態を調査、検証するとともに、一連の出版物に関わる同時代言説等についても精査し、アジア太平洋戦争期における英米文学受容とナショナル・アイデンティティ形成との関連性について考察を行う。また、地方や植民地での翻訳・受容に関わった人物の動向を取り上げ、諸種の文化的葛藤や危機感が併存する時代の特徴を実証的に捉える作業を進めていく。

いずれの調査についても、新型コロナウイルスの流行によって、計画通りに実施することは難しい状況に追い込まれた（特に、海外での資料調査）が、可能な範囲での移動と、研究ネットワーク、また、インターネットで公開された情報などを組み合わせながら活かすことで、粘り強く、調査を蓄積していった。

#### 4. 研究成果

3年間にわたる本研究によって、「研究の目的」に即して、世界戦争が進行していく歴史のなかで、帝国日本のナショナル・アイデンティティの構築・再編成に、どのように日本の文学（文学者・文学活動）が関わっていたのかを、実証的に明らかにした、多角的な成果を生み出すことができた。

公刊して社会に発信した成果としては、2冊の図書と19本の研究論文などが主なものだが、それらの基盤となった調査の蓄積や、成果によって開拓された新たな研究領域も、本研究の成果として重要な意味を持つ。

以下、2つの研究軸に即して、研究成果を概説していく。

第一に、「研究軸 「大東亜」時代の「地方」文化」については、昭和10年代という視座から国内外における「地方」において、どのような動機や立ち位置から文学者がいかなる言説を紡ぎ、それがどのように受容され、意味作用を果たしたか、といった注目点から、多角的な研究を進めた。

国内に関しては、地方に注目した言説を対象として、地方文化に関する文学者・文化人の発言や、郷土を語ったエッセイ、疎開についての意味づけ、移動演劇の活動などを中央・地方の媒体から確認し、それらが昭和10年代のナショナル・アイデンティティを構成する要素となっていく見通しを得ることができた。また、特に太宰治の小説『惜別』に関しては、中国人主人公（モデルは若き日の魯迅）を掲げ、地方を舞台にした意義深い作品として、その歴史的な意義を論文化することができた。

国外に関しては、いわゆる南方徴用として「大東亜共栄圏」で文化工作に従事した文学者が生み出した記録、報告文学（ルポルタージュ）、創作にわたる多ジャンルからなる文学言説を対象として、いくつかの地域・文学者を注目点として掘り下げた。特に、徴用によって東南アジア各地に派遣された文学者たちのテキストに、他者としての現地の人々との接触がどのように記述されているかを検討した。具体的には、フィリピンにおける火野葦平、尾崎士郎、石坂洋次郎、ビルマにおける高見順などである。そうした文学言説は、「大東亜共栄圏」の様相を内地に伝達すると同時に、その表象（の原型）をかたちづくり、その返照として「日本」という地域のナショナル・アイデンティティを形成していくことにもなった。

第二に、「研究軸 外国文学・文化の翻訳・受容」については、太平洋戦争中において、英・米・仏などの諸外国文化・文学に親炙し、翻訳や教育を通じて関わっていた文学者はどのような活動をしていたのか、従来ほとんど検討されてこなかった問題領域の調査を進めた。調査に際しては、諸外国に向けての発信である対外文化工作、日本における外国文学・文化の受容の複眼的な視点を確保するように努めた。

イギリスに関しては、1940年代に発行された対外宣伝の英誌『Contemporary Japan』等の調査を通じて、日本文学を日本国外の動向と関連づけて考察する視点を獲得することができた。また、戦前・戦中期の英学・英語教育の動向等を踏まえながら、その編集方針および記事内容を調査し、「敵性語」となった英語を扱う出版事業の様子や日本文学の英語訳の位置づけを検証した。

フランスに関しては、太平洋戦争期がフランス語・フランス文学の受容の歴史の空白期ではなく、むしろ様々な問題を孕んだ注目すべき時期だったことが明らかになることができた。また、

この時期、日本のフランス文学者がフランスの植民地（仏印）を強く意識していたことも明らかになった。

さらに、上記の研究成果を包括的に一望する視座を提供する研究書『文学と戦争』（2021）や、10ヶ国以上で翻訳された谷崎潤一郎『陰翳礼讃』（2023）が描き出す世界をめぐるネットワークを記述した『谷崎潤一郎の世界史』なども公刊することができた。

以上を総合すると、本研究においては2つの研究軸からの多角的な調査・考察を通じて、世界戦争期におけるナショナル・アイデンティティの構築・再編成について、具体的な様相を記述することができた。また、これらの成果を通じて、単なる資料整備にとどまらない、世界戦争期の文学を問題化する研究の新たなステージを準備することができた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 14件）

1. 著者名 松本和也	4. 巻 91 (4)
2. 論文標題 「文化総合会議 近代の超克」同時代受容分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 38-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本和也	4. 巻 (128)
2. 論文標題 太平洋戦争期におけるフィリピン・ルソン宣撫工作 石坂洋次郎「マヨンの煙」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立教大学日本文学	6. 最初と最後の頁 13-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本和也	4. 巻 (8)
2. 論文標題 不和 のテキスト 太宰治『惜別』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 淑徳大学人文学部研究論集	6. 最初と最後の頁 129-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本和也	4. 巻 (10)
2. 論文標題 新聞連載小説としての「花と兵隊」 火野葦平の小説 / 中村研一の挿絵	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 神奈川大学アジア・レビュー	6. 最初と最後の頁 4-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24792/00018537	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 若松伸哉	4. 巻 (71)
2. 論文標題 石川淳と小松清 昭和初期におけるジイド受容をめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 説林	6. 最初と最後の頁 43-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渋谷豊	4. 巻 10 (1)
2. 論文標題 太平洋戦争期の日本におけるフランス文学受容: その一	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 信州大学人文科学論集	6. 最初と最後の頁 87-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本和也	4. 巻 90 (6)
2. 論文標題 川端康成『雪国』同時代受容分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 22-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本和也	4. 巻 (83)
2. 論文標題 南方徴用作家の自己成型 高見順「ノーカナのこと」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 昭和文学研究	6. 最初と最後の頁 60-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.50863/showabungaku.83.0_60	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本和也	4. 巻 (66)
2. 論文標題 昭和10年代における地方文化(運動)言説 : 文学(者)を軸として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文学研究所報	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本和也	4. 巻 (204)
2. 論文標題 太平洋戦争期の文化工作言説 - 南方・諸民族・大東亜共栄圏	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文研究	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本和也	4. 巻 (9)
2. 論文標題 パターン半島総攻撃における文化工作 上田廣「地熱」・柴田賢次郎「樹海」を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 神奈川大学アジア・レビュー	6. 最初と最後の頁 4-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 若松伸哉	4. 巻 (104)
2. 論文標題 孤独(アインザーム) な交友 太宰治『惜別』と地方文化運動	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本近代文学	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本和也	4. 巻 (23)
2. 論文標題 岸田國士「かへらじと」を読む 移動演劇の作劇術	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大衆文化	6. 最初と最後の頁 37-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本和也	4. 巻 (64)
2. 論文標題 帰還する南方徴用作家・序説 尾崎士郎「朝暮兵」・火野葦平「敵將軍」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文学研究所報	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本和也	4. 巻 97(12)
2. 論文標題 文学史上の ヒューマニズム 昭和一〇年代の軌跡	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 46-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本和也	4. 巻 (124)
2. 論文標題 昭和一六年・文学者が書く蘭印 高見順『蘭印の印象』・『諸民族』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立教大学日本文学	6. 最初と最後の頁 82-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 松本和也	4. 巻 (8)
2. 論文標題 帰還した南方徴用作家の内省 高見順「帰つての独白」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神奈川大学アジア・レビュー	6. 最初と最後の頁 22-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本亮介	4. 巻 (19)
2. 論文標題 文芸懇話会賞と翻訳	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 横光利一研究	6. 最初と最後の頁 145-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五味淵典嗣	4. 巻 (16)
2. 論文標題 戦場の高見順 日本近代文学館蔵「陸軍宣伝班資料ノート」「ピルマ雑記帖」から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本近代文学館年誌	6. 最初と最後の頁 17-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 五味淵典嗣
2. 発表標題 幻影の強度 横光利一『微笑』を読む
3. 学会等名 第22回横光利一文学会
4. 発表年 2022年

## 〔図書〕 計2件

1. 著者名 西村将洋	4. 発行年 2023年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 512
3. 書名 谷崎潤一郎の世界史 『陰翳礼讃』と20世紀文化交流	

1. 著者名 松本和也	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 592
3. 書名 文学と戦争 言説分析から考える昭和一〇年代の文学場	

## 〔産業財産権〕

## 〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西村 将洋  (NISHIMURA Masahiro)  (70454923)	西南学院大学・国際文化学部・教授   (37105)	
研究分担者	山本 亮介  (YAMAMOTO Ryosuke)  (00339649)	東洋大学・文学部・教授   (32663)	
研究分担者	若松 伸哉  (WAKAMATSU Shinya)  (40583802)	愛知県立大学・日本文化学部・准教授   (23901)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	五味 淵 典嗣 (GOMIBUCHI Noritsugu)  (10433707)	早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授  (32689)	
研究分担者	渋谷 豊 (SHIBUYA Yutaka)  (70386580)	信州大学・学術研究院人文科学系・教授  (13601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関